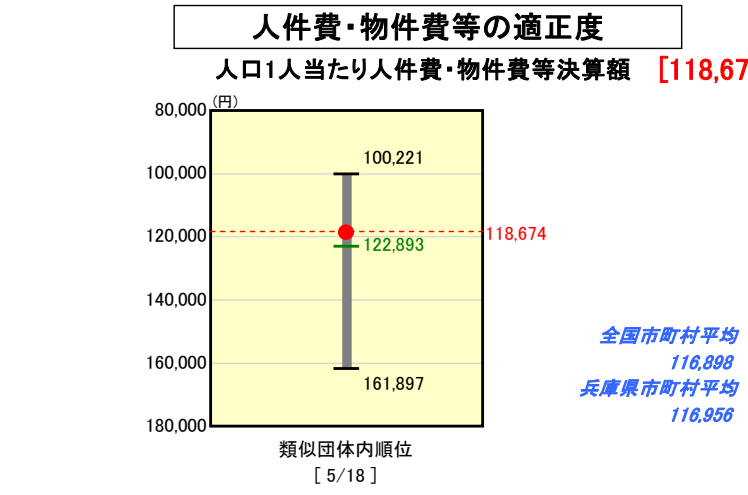
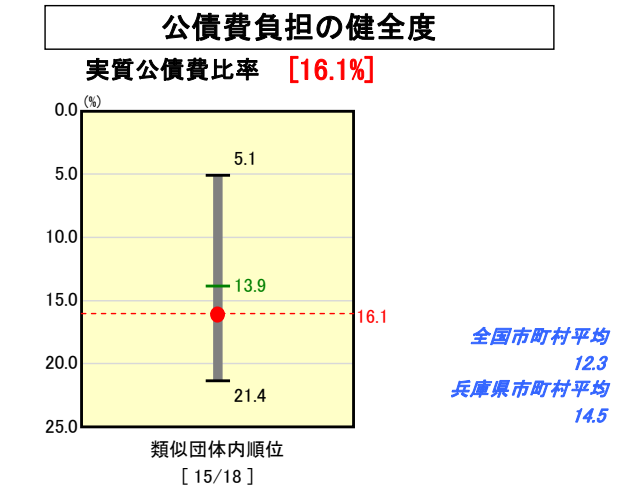
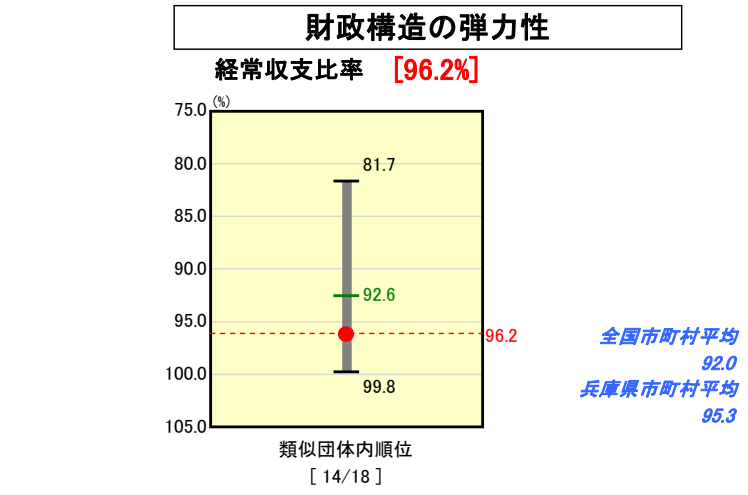
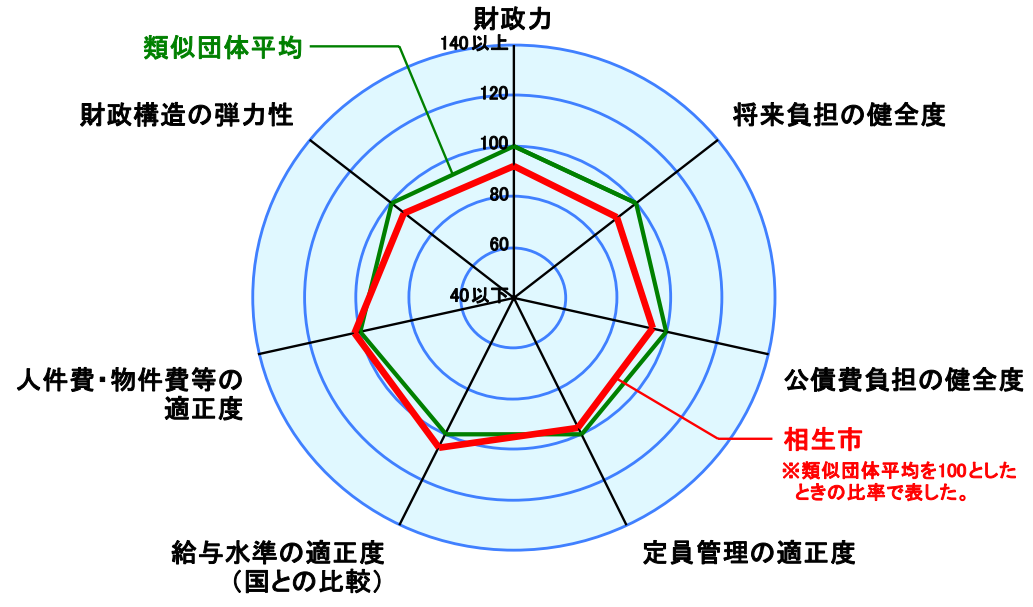
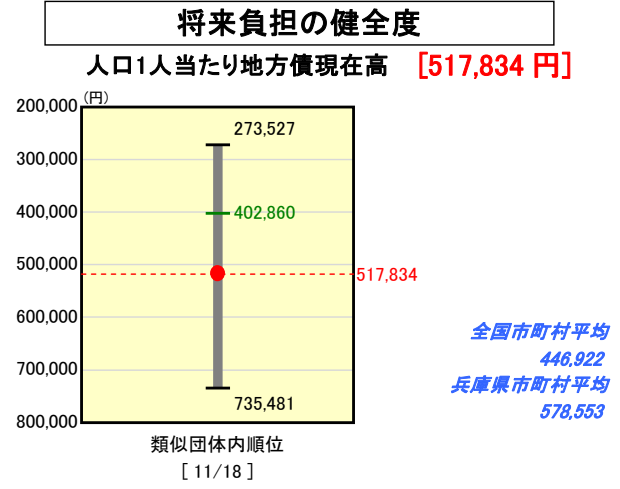
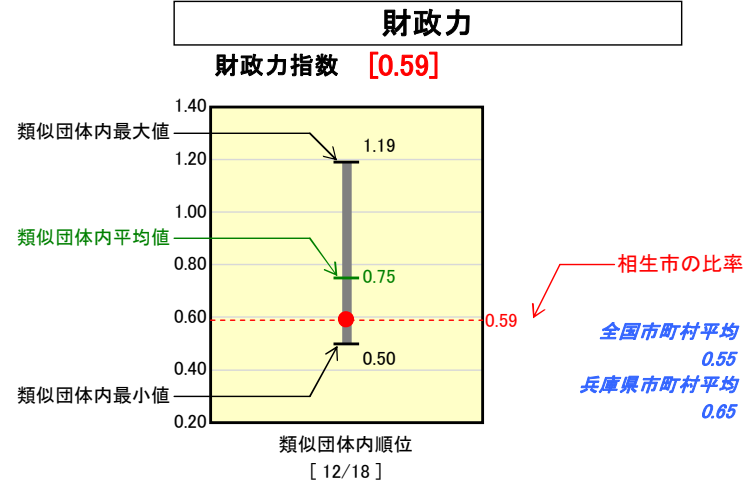


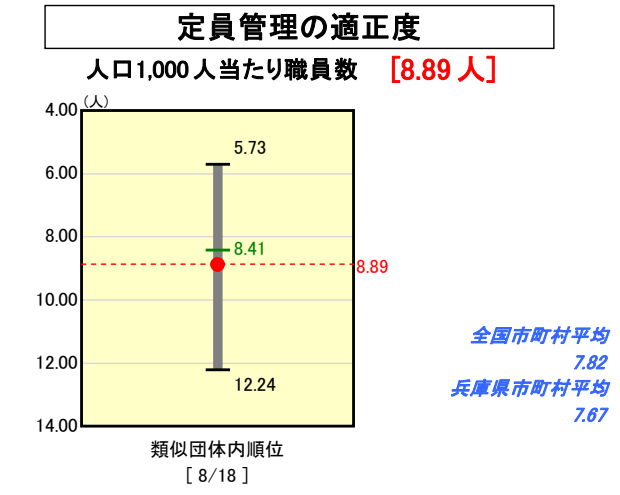
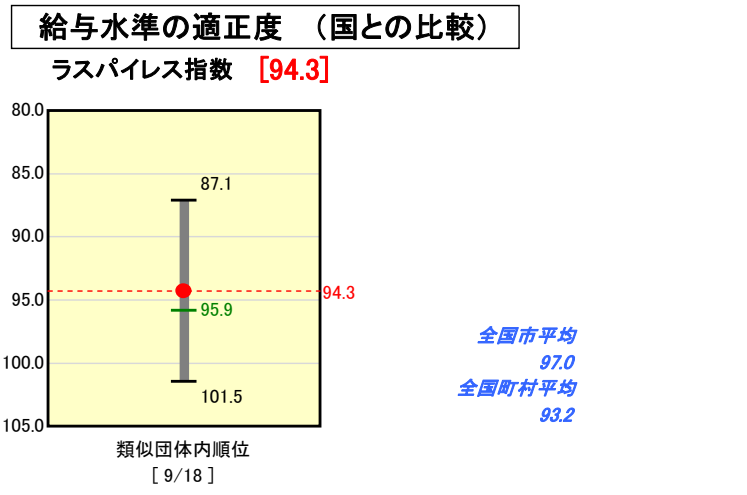
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

兵庫県 相生市

人口	32,178 人(H20.3.31現在)
面積	90.45 km ²
歳入総額	12,339,370 千円
歳出総額	11,936,276 千円
実質収支	349,166 千円



給与水準の適正度 (国との比較)
 ※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
 ※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
 ※ラスパイルズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- 財政力指数**
H18年度から5年間の「相生市行政健全化計画」に基づく歳出削減(H17年度当初予算比20%減を目標)に取組むとともに、徴収率向上対策を図った(H17年度87.7%⇒H19年度93.2%)結果、5年連続の改善となったが、類似団体平均に比べ低い値であり、今後も引き続き歳出削減及び歳入確保の取組みに努める。
- 経常収支比率**
公債費の増(対前年度比5.0%増)に加え、普通交付税の減(対前年度比2.9%減)などにより、対前年度比0.8ポイント増となり、4年連続の悪化となった。H20年度が市債償還のピークであり、今後は徐々に改善するものと見込まれるが、「相生市行政健全化計画」に基づき、引き続き歳出削減に努める。
- 人口1人当たり人件費・物件費等決算額**
類似団体平均よりも少額であり、概ね適正と言えるが、人口減や施設の老朽化に伴う維持修繕費の増加も予測されるため、今後も引き続きコスト削減に努める。
- 人口1人当たり地方債現在高**
過去の大規模事業に伴い多額の市債を発行してきたことから、類似団体平均に比べ多額となっている。市債の新規発行を抑制(対前年度比22.6%減)するとともに、公債費の繰上償還(平成19～21年度で約3億7,600万円を予定)を進め、適正化を図る。
- 実質公債費比率**
過去の都市基盤整備事業に伴い借入れた市債の償還が多額であり、類似団体平均より高い数値となっている。平成20年度が償還のピークであること、平成21年度までの3年間で約3億7,600万円の繰上償還を行うことなどから、平成22年度以降は減少傾向になるものと見込んでいる。
- 人口1,000人当たり職員数**
H18年度から5年間の「第3次定員適正化計画」(△41人、概ね12%減)に基づき、職員数削減に取り組んでいるが、人口減の影響もあり、全国市町村・類似団体平均よりも高い値を示している。今後も引き続き、人件費の削減とともに、適正な定員管理に努める。
- ラスパイルズ指数**
給与制度については、国の基準を基本に取り組んでおり、適正な給与水準を維持してきた。本指数は、経験年数階層によって国平均より低い階層が多く、全国市・類似団体平均より低い値を示している。今後も、定員管理とあわせて給与適正化に向け取り組む。